

調査報告

境原山邊家資料調査について

一 始めに

佐賀県立図書館では、平成二十一年度より「佐賀県歴史データベース事業」（産学官連携事業）を行っており、佐賀大学地域学歴史文化研究センターの協力を得て歴史資料の整理・調査を進めている。本稿は、産学官連携事業の一つとして取り組んだ境原山邊家資料（以下「資料」）について、現在までの概要調査・整理状況、資料の概要等を紹介することを主眼とする。

平成二十三年四月末、原所蔵者である山邊家の御当主から佐賀県立図書館への寄贈の御意向を頂き、山邊家において事前調査を実施した。その後、資料受入を行ったが、八月からは産学官の事業として本格的な整理に着手した。

山邊家は既出論考^①にも紹介される如く、神埼市千代田町（旧神埼郡境原村）に所在する若宮神社（神階「正一位」）で「大宮司」号を許された祠官として古い歴史をもつ。藩政期には佐賀本藩、蓮池支藩や京師・吉田家（吉田神道）家職との関わりを持つと共に御触を廻送する触頭の役職を担っていた。近代初頭期には佐賀県下において政治・文化・教育などの分野に名を見出すことが出来ることから、地域知識人層に包含される家で

あったと考えられている。

また、「資料」は、「若宮神社資料」として広く知られており、とりわけ「山邊生芳日記」は佐賀県の近代史研究に活用されてきた。

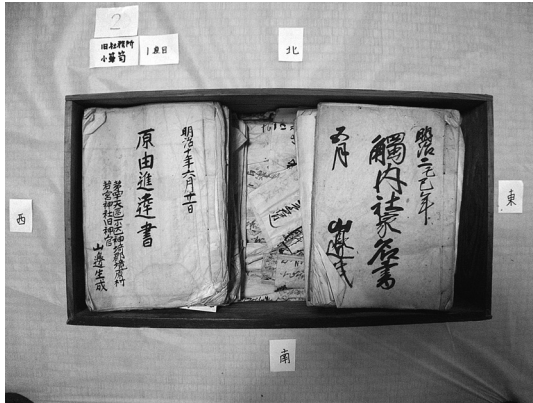
なお、「資料」は一定の整理を終えたものの、原本の閲覧等の対応は行っておらず、整備が完了し次第公開を行う予定である。

二 調査概要

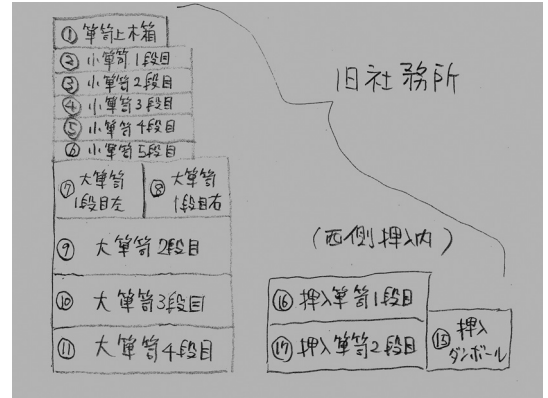
「資料」は、若宮神社敷地内の倉庫、応接室（南書棚・ダンボール・別置資料）、旧社務所（筆筒・押入）、社殿にそれぞれ保存されていた。事前調査では、資料所在箇所ごとに含まれる資料の大まかな内容を確認し、資料概数は凡そ三千点と見込んだ。五月には資料搬送作業を行ったが、その際、二七×三八×二七（cm）サイズの箱に詰め替え、本館に搬送した。容器の数は三二箱に上った。

現地での概要調査は保存箇所を筆記記録し、収納容器から資料のまとまりを取り出す際には、資料のまとまりごとの写真撮影により原秩序を記録した。搬送作業時には、資料の原秩序を保持する様に注意し、保存場所ごとに数字番号を付した。旧社務所については筆筒三棹、押入一箇所に分けて収納されていたので、収納箇所ごとにアルファベット記号を付した。

佐 藤 紘 一



小箆筒一段目原状写真



保存箇所の筆記記録

に随い、山邊生成、生芳など歴代の当主が主体となり整理を加えたであろう形跡が窺われた。今後のより詳細な調査に拠っては、更に遡って藩政期の原秩序が読み取れる資料群も確認される可能性もある。

整理前段階で「資料」の全体像を把握していたが、整理を進めるに写真撮影を行い、出所が明瞭となる様に考慮した。また、資料の保全の為に薄葉紙や封筒に収容する方法を取った。

整理前段階で「資料」の全体像を把握していたが、整理を進める

- ① 倉庫
- ② 応接室（南書棚・ダンボール・別置資料〔居間で保存されていた「山邊生芳日記」〕）
- ③ 旧社務所（A西側押入、B「箆筒上木箱」、C「小箆筒」、D「大箆筒」）
- ④ 社殿

具体的な作業手順は、それぞれの資料を担当ごとに分担し、資料

取り出し作業を実施した。取り出した資料は、一定の塊ごとに整理

番号（通番）を付した。箆筒に収納されていた資料は箆筒一段ごと

に写真撮影を行い、出所が明瞭となる様に考慮した。また、資料の

保全の為に薄葉紙や封筒に収容する方法を取った。

整理前段階で「資料」の全体像

を把握していたが、整理を進める

に随い、山邊生成、生芳など歴代の当主が主体となり整理を加えたであろう形跡が窺われた。今後のより詳細な調査に拠っては、更に遡って藩政期

別表)「境原山邊家資料」の概要

整理番号	資料所在箇所	内容状況（概数・主資料・状態など）
1	箆筒上木箱	約211点、短歌・書・軸物・神社関係資料
2	小箆筒1段目	約117点、「觸内社家名書」・進達書・書状
3	小箆筒2段目	約223点、祝詞・祭文・神社関係書状
4	小箆筒3段目	約5点、「高崎山野猿の生態」ほか近代出版物
5	小箆筒4段目	約51点、「生成代記録」・「伝授本」ほか冊子・書状
6	小箆筒5段目	約68点、祝詞・書状など神社関係資料
7	大箆筒1段目左	約244点、軸物・木箱入書状・近代書類・書状
8	大箆筒1段目右	約106点、神社関係冊子・書状
9	大箆筒2段目	約73点、「生成代記録」・長帳・冊子
10	大箆筒3段目	約203点、近世書状・冊子・神社関係資料
11	大箆筒4段目	約864点、近代生芳関係書簡
12	応接間南書棚	約25点、「旧神社明細帳」・系図
13	居間	約15点、「山邊生芳日記」
14	応接間ダンボール	約331点、山邊生芳を含む写真
15	押入ダンボール	約57点、刊本
16	押入箆筒1段目	約224点、刊本
17	押入箆筒2段目	約134点、刊本
18	倉庫	約54点、刊本
19	社殿	幟、4枚

三 資料概要

「資料」は、下記の通りに大別される。

・山邊家で収集された典籍。和本や近代印刷物を主とするが、一部には近世期の写本を含む。内容は、祠官として職務上の必要性から収集したと考えられる神道、歴史、文学に関するもの、また、他の職務上収集されたと考えられる総記、歴史、文学に関するものなど多岐に亘る。

・山邊家において作成及び収受された記録類。江戸中後期から明治期の資料が量的には大半を占める。内容は、吉田神社関係や藩政機構関係、若宮

神社関係、山邊家家政（個人）関係が主たる資料である。これらの内、江戸期のものが「若宮神社資料」と呼ばれてきた。また、山邊家及び親交のあった人物の和歌・漢詩・書画などの文芸作品や肖像写真がある。

なお、収蔵箇所による資料種を大別し、別表に掲げた（前頁参照）。

四 資料紹介

これ迄に仮目録作成を終えた資料（平成二十三年十二月現在、約三〇〇九点）から若宮神社並びに山邊家に関わる資料を中心に紹介する。

○典籍

『歴史・伝記』、『神道』、『事典』、『国文学』、『漢籍（準漢籍）』。収集主体者や目的、作成（刊行）年は現時点では不明である。

この中で、二点を紹介する。

・『和漢三才図会』（刊本）挿絵入り百科事典。虫損が見られる為、刊行年は不詳である。鍋島家文庫や蓮池鍋島家文庫の目録にも記載が無い。

・南里有隣の著作（写本）『湯津爪櫛五』、『熱碗鳴聲初稿』。

南里は幕末の神道思想家であるが、「資料」中の和歌には、南里有隣自身の名前が確認出来、門人の岡吉胤や西川須賀雄の和歌、書簡が確認出来た。

○記録類

【吉田神社関係】神道裁許状類⁽³⁾。吉田神道に係る神道管領長上家職との公私に亘る書簡。書簡の内容は継目相続・神道伝授など各種願に際しての取次、賀状等。

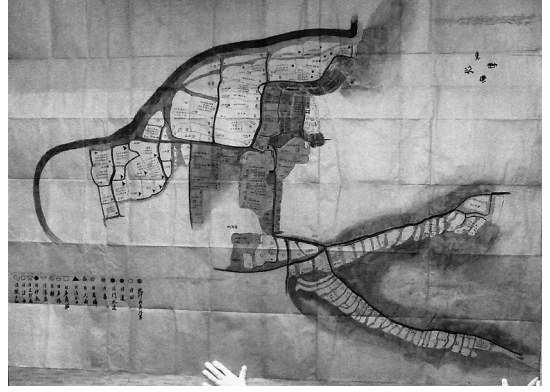
【藩政機構関係】鍋島勝茂判物（石隈家家禄覚⁽⁴⁾）。佐賀本藩、蓮池支藩の役方（寺社方・元メ方・馬方・神事方・六府方・諸調方・山方・修理方・目安方）発給の達類。若宮神社とこれら役方との往復文書の覚。近国往来手形などの鑑札。

【若宮神社関係】任免状（官位官途、神官職）。各種口上・願書覚（神道伝授に係る取次文書、社殿修復願）。寄附帳簿。社領調帳（廣瀧山庄屋差出）、社領庄屋発給文書、神社差出帳（若宮神社及び触頭として所管した各社の由緒、社人系図類⁽⁵⁾）。祝詞・祭文（鍋島家の登京や慶応四年出征に際しての戦勝・武運長久祈願、大木喬任・遠吉父子の顕彰）。護符、印刷札が多量に残存。明治期以降では、神社明細帳、合祀に係る書類、社領地売買書類。

【山邊家個人資料】山邊家歴代当主、家人が作成・収受した私文書・公職文書等。「山邊生芳日記」をはじめ、生芳から父生成への書簡（明治十年前後が中心。神風連、秋月、萩の「騷擾」関連の伝聞記事）、親交を持った社人及び公人との通信書簡、尋常高等小学校「教授案」（明治四十三年度）。

「山邊生芳日記」は、明治期に県会議員として活躍した山邊生芳の約二十年間（明治十一年～三十年）に亘る日記であるが、明治十一年以前の生芳に付いては不詳な点が多かった。しかし、前述の書簡から明治九年段階で長崎県庁戸籍係、同年十一月厳原出向、同十年長崎県庁第一課、同年福岡県庁へ転属などの足跡を辿ることが出来た。「山邊生芳日記」以外に書簡や各種の覚を取りまとめた業務手控が確認出来「生延代記録」、「生成代記録」などとして採録した。

【絵図】神領図及びその下書き図、筑前国大宰府・宗像・香椎など宮社の絵図、土地明細図。他に神道祭儀道具及びその配置絵図。彩色描画された馬術免状が含まれる。



神領図（山内絵図）

【和歌・漢詩・書画】山邊生芳の名が確認された和歌二〇点。生芳は、「資料」中にも確認される築山信輔と共に「及遠社」の歌会に参加し、他にも社人関係者による歌会に出入していた。その他、成富椿屋や佐野常民の名や号が記された書画を確認した。

五 終わりに

山邊家は、藩政期の少なくとも後半期には役方からの達・触状を触内の各社に廻達する触頭として役務を勤めており、今回御寄贈頂いた「資料」は地域の社家資料として重要な位置付けが出来る。また、神道管領長上家・吉田神道と地方神社の関係を紐解く書簡資料の存在も大きな意味を持つ。

また、明治期地方政治に一官吏、県会議員として関わった山邊生芳個人の記録は、決して個人史的範疇に止まらない地域資料として有意である。特に、明治十年前後の生芳書簡は「山邊生芳日記」と相俟って難治県と呼ばれた地方県の社会・政治情勢を明らかにする資料として重要である。

今後、資料種の分類と点数確認を通して「資料」の精査を行うことで御寄贈頂いた御好意に応えたいと考えている。

末筆ながら、「資料」の御寄贈を頂いた山邊家御当主山邊和之氏に深く感

謝すると共に、長年に亘って資料の散逸を防ぎ、災禍から守って来られた山邊家の皆様に敬意を表したい。また、「資料」の整理に御協力頂いている皆様に謝辞を申し述べたい。産学官連携事業のもと御指導を頂いている佐賀大学地域学歴史文化研究センターの伊藤昭弘准教授、整理作業を丁寧に行って頂いている佐賀県立図書館「図書館サポーター」の皆様、県立図書館資料課郷土調査担当職員一同より厚く御礼申し上げ、本稿を結びとしたい。

【註】

- (1) 佐賀県史編さん委員会『佐賀県史 下巻（近代編）』佐賀県・一九六七、佐賀市史編さん委員会『佐賀市史』佐賀市・一九七七、佐賀の文学編集委員会『佐賀の文学』新郷土刊行協会・一九八七、など。
- (2) 家老鈴鹿家、大角家、山田家、谷家など神道管領長上家である吉田家に勤仕した諸家。
- (3) 神道管領長上家発給の種々の許状。寛文五年「諸社禰宜神主法度」により、結果的に専ら吉田家が発給することになった。財団法人神道大系編集会『神道大系論説編九 占部神道（下）』財団法人神道大系編集会・一九九一・一二頁。
- (4) 蓮池藩士。山邊家とは姻戚関係にある。これらの判物が山邊家に伝来した経緯は不詳である。
- (5) 若宮神社に関するものとして『境原宮御由緒并社務系圖差出帳』『志波深雪翻刻「佐賀民俗学」第九号・一九八七』がある。肥前国、とりわけ佐賀藩領における神社縁起の多くは写本として佐賀県立図書館が所蔵している。
- (6) 山邊生芳と歌会に関しては、『佐賀の文学』『佐賀の文学編集委員会編・新郷土刊行協会・一九八七・一六三〜一六八頁』に詳しい。「資料」には、築山の外に西川須賀雄、岡吉胤、杉野竹弘と言った社人の名が散見される。また、和歌や書に限らず、これら諸人差出の書簡などもあり、互いに関わりを有していたことが推測される。

（佐賀県立図書館資料課郷土調査担当）